

令和2年6月16日

生徒・顧問のみなさまへ

### 長野県高等学校総合体育大会代替大会テニス競技会の開催趣旨について

長野県高校総体中止の決定以来、長野県高体連テニス専門部では、県高体連および県テニス協会と協議を重ねながら、代替大会の開催の可能性とその方策について模索してきました。そして、新聞報道にもあったように、ようやくではありますが、先週から開催を前提とした代替大会の準備を進めることができるようになりました。そこで、以下に今回開催する代替大会の趣旨等について説明をします。

代替大会は、「国体予選 兼 長野県高等学校総合体育大会代替大会」という名称で、国体予選と兼ねる形になります。また、長野県教育委員会、長野県テニス協会、長野県高体連の3者が主催する高校総体と同格の大会です。

また、開催が7月上旬で、例年だと文化祭が行われる時期であるため、受験勉強を始めなければならない3年生にとって大きな負担にならないとも考えています。

ただ、部活への強い思いを抱く3年生のみなさんもある反面、逆に部活への気持ちが薄らぎつつあるみなさんが多いのも実情だと思います。そこで、専門部で考えたのが、国体予選の正式な種目とは別に、3年生のみが出場可能な種目を設定することです。お互いに練習不足や体力不足があるなか、勝ち負けにこだわらず、無理のない範囲でテニスを楽しむ種目を設けようということです。

2月の下旬まで、生徒のみなさんは最後の大会を目指して頑張ってきました。まさか「軽井沢フェスティバル」や「全日本ジュニア」、「高校総体」といった楽しみにしていたり、目標にしていた大会がなくなってしまうなどとは想像さえできませんでした。ましてや、最終学年の2ヶ月という時間そのものを奪われてしまうということも。3年生のみなさんがおかれた状況や気持ちを考えると、とてもやりきれない気持ちになるのは、どの教職員もみな同じではないでしょうか。

確かに部活から気持ちが遠のいてしまっている3年生も多いと思います。しかし、長年、高校テニスの現場に関わってきた人間としての願いは、仲間との絆の大切さやコートでボールを打つ喜びまで薄らいで欲しくないということです。勝ち負け以上に価値あるものを、最後にもう一度みなさんに感じて欲しいのです。そして、例年の3年生たちがそうであるように、今度は自分の進路に向かって頑張っていこうとお互いに確かめ合い、新たなスタートを切るきっかけにしたいと思います。

長野県高等学校体育連盟テニス専門部

委員長 赤塩 仁